

特別史跡

西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書(XVIII)



2016. 3

宮崎県教育委員会

例 言

1. 本書は文化庁の補助を受け、宮崎県教育委員会が実施した「西都原古墳群調査整備活性化事業」の平成27年度事業概要報告書である。
2. 発掘調査は宮崎県教育委員会が事業主体となり、宮崎県立西都原考古博物館が実施した。
3. 発掘調査及び保存整備の実施地点は、下記のとおりである。
 - 西都原265号墳：宮崎県西都市大字童子丸字新立674番・675番（発掘調査）
 - 西都原101号墳：宮崎県西都市大字三宅字東立野4700番9（発掘調査）
 - 西都原100号墳：宮崎県西都市大字三宅字東立野4700番9（保存整備）
4. 本書の執筆・編集は、宮崎県立西都原考古博物館学芸普及担当主査 堀田孝博が担当した。
5. 発掘調査で出土した遺物は、同博物館にて保管している。

目 次

第Ⅰ章 発掘調査及び整備の経緯	1
第1節 既往の整備事業	
第2節 西都原古墳群調査整備活性化事業	
第Ⅱ章 西都原265号墳の発掘調査	2
第Ⅲ章 西都原101号墳の発掘調査	2
第Ⅳ章 西都原100号墳の保存整備	2

第 I 章 発掘調査及び整備の経緯

第 1 節 既往の整備事業

西都原古墳群は、1912（大正元）年から1917（同6）年にかけて、我が国最初の古墳の学術的・組織的調査が実施された後、1934（昭和9）年5月1日に国の史跡に、1952（昭和27）年3月29日には、特別史跡に指定された。後の追加指定を経て、現在の指定面積は、約58万㎡に及んでいる。そして、1966（昭和41）年から1969（同44）年まで、最初の『風土記の丘』として整備事業が行われ、以後、史跡公園としての環境維持や古墳の保護が図られてきた。

その状況を踏まえた上で、宮崎県教育委員会では「史跡の保護」に加えて「活用」という観点から1993・1994（平成5・6）年度に「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設置し、1994年度末に『西都原古墳群保存整備基本計画』をまとめ、それに基づき1995（同7）年度より新たな整備事業に着手している。

1995（平成7）年度から2002（同14）年度にかけては文化庁の補助事業である「大規模遺跡総合整備事業」（1997（同9）年度より「地方拠点史跡等総合整備事業」）を活用し、発掘調査の成果を基にした古墳の復元整備工事や環境整備、見学施設の建設、土地公有化などが行われた。

その後、2003（平成15）年度から2007（同19）年度には「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」の事業名で、46号墳の発掘調査や111号墳の墳丘復元工事などを実施し、2008（同20）年から2013（同25）年度には「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」の事業名で、46・47・201・202・284号墳の発掘調査や46・47・202号墳の墳丘復元工事などを実施した。

第 2 節 西都原古墳群調査整備活性化事業

宮崎県教育委員会では、2013（平成25）年度に前述の『西都原古墳群保存整備基本計画』を上位計画と位置づけた上で、新たな整備実施計画を策定し、2014（同26）年度より標記事業に着手している。

当該事業は、西都原古墳群における発掘調査・整備保存が果たした学術的・文化的・社会的役割を踏まえつつ、古墳群を保存・継承していこうとする機運の醸成、歴史と文化を活かした魅力あるまちづくりなど地域の活性化を促進するもので、発掘調査や調査終了古墳の整備保存のほか、これまでに整備が終了した古墳の再整備なども計画している。

2015（同27）年度は265号墳の発掘調査を継続し、前方部における墳丘規模や構造、周溝の有無や形状等の確認を行うとともに、1917（大正6）年の発掘調査（第6次調査、以下では大正調査とする）における調査坑の再発掘を実施した。また、101号墳の発掘調査を実施し、墳丘の形状や規模、埴輪採用の有無等の確認を行った。100号墳については、2014（平成26）年度に引き続き、前方部および周溝の再整備を実施した（第1図）。

第Ⅱ章 西都原265号墳の発掘調査

265号墳は「船塚」の通称で知られており、西都原台地最北端のグループである第3支群に位置する唯一の前方後円墳である。大正調査では、後円部墳頂から変形十字文鏡1、碧玉製管玉19、鉄刀3、鉄鉾1、刀子2、鉄鏃多数が出土した。2014（平成26）年度の調査では、主として後円部における墳丘の規模や構造、周溝の有無や形状等の確認、大正調査坑の位置や規模を把握するためにトレンチを設定した（トレンチ1～10）。調査の結果、墳丘一段目・二段目ともに葺石が残存すること、墳丘の東側から北側にかけて周溝が存在することを確認した。墳頂部では、大正調査坑のプランを一部検出し、精査の過程で碧玉製管玉1点が出土した。また、左くびれ部には造り出しの存在を確認した。造り出しの側面には葺石が施されており、上面で土師器高杯等の破片が出土した。

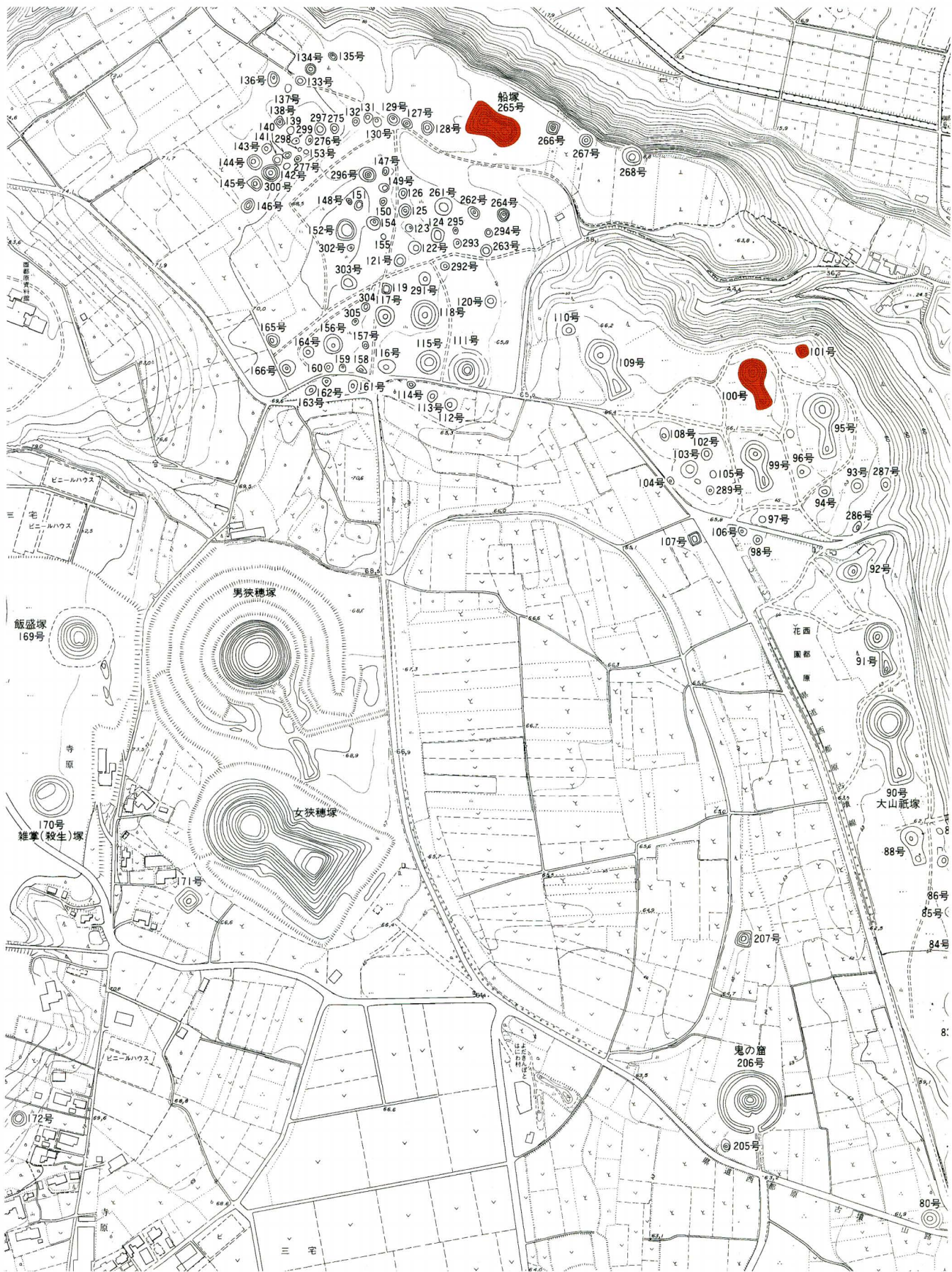
2015（同27）年度の調査では、前方部において墳丘の主軸およびそれに直交する方向でトレンチを設定した（トレンチ12～15）。また大正調査坑の全面検出を目指し、前方部墳頂にもトレンチを設定した（トレンチ11）。各トレンチについて掘り下げを行った結果、前方部にも墳丘一段目・二段目の葺石が残存すること、墳丘西側にも周溝がめぐることが判明した。大正調査坑についても検出されたプランに沿って掘り下げたところ、大正調査終了時に埋設された碑石が出土したほか、玉類、鉄製武器類の破片も少量ながら見つかった。

第Ⅲ章 西都原101号墳の発掘調査

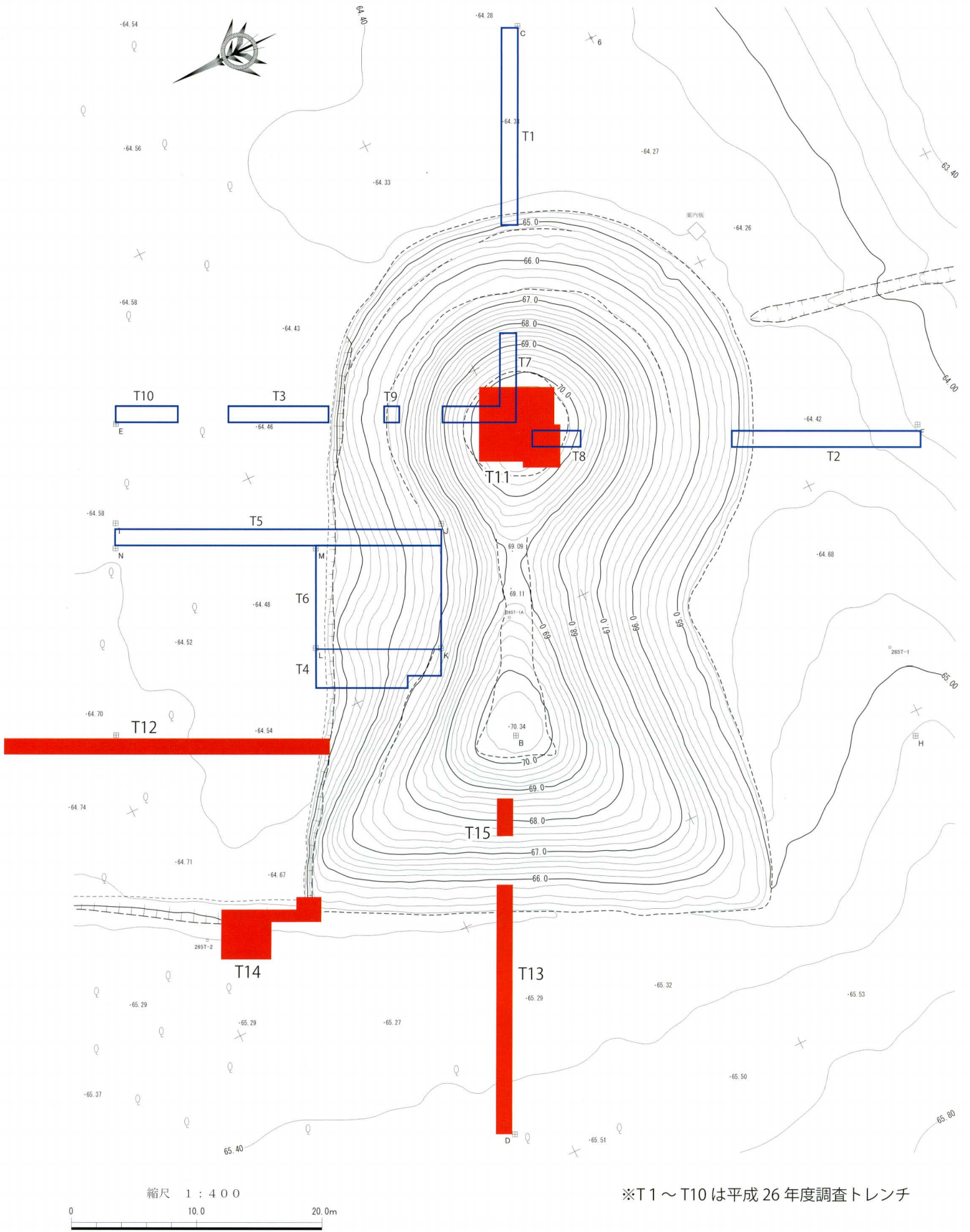
101号墳は第2支群の北東隅に位置する。これまでに発掘調査は行われていないが、墳丘上で円筒埴輪・鐙付壺形埴輪の破片が採集されていた。また、近年実施された地中レーダー探査の結果から、方墳である可能性が指摘されており、墳丘形状や規模、埴輪採用の有無等を確認するための発掘調査を実施した。墳丘に対して十字にトレンチ（トレンチ1～4）を設定するとともに、南東側の隅角部と推定される位置にもトレンチを設定した（トレンチ5）。調査の結果、5トレンチで隅角が検出され、西都原古墳群で2例目となる方墳であることが確定した。墳丘は二段築成で、一段目・二段目ともに葺石が残存している。埴輪も多数出土しており、墳頂部には家形埴輪・蓋形埴輪・鐙付壺形埴輪、テラス部には円筒埴輪・鐙付壺形埴輪、隅角部墳裾には短甲形埴輪が見られた。

第Ⅳ章 西都原100号墳の保存整備

100号墳は101号墳の西側に隣接する前方後円墳で、1998～2000（平成10～12）年度に発掘調査を実施した。墳丘斜面部の全面に葺石が施されており、その遺存状況は全国の前期古墳の中でも際だって良好であることから、葺石を露出する形での整備・公開を実施し、古墳本来の姿を理解できる整備の一例を示した。整備施工後10年が経過し、所期の目的は概ね達成できたと判断したため、盛土・芝張りによる保存に軸足を移した再整備を行うこととなり、2014（同26）年度に後円部の工事、2015（同27）年度に前方部および周溝の工事を実施した。



第1図 発掘調査・復元整備古墳の位置図



第2図 西都原265号墳トレンチ配置図 (S=1/400)

**写真1 265号墳トレンチ11全景
(南東から)**

後円部墳頂で大正調査坑を検出した。再発掘の結果、後円部のほぼ中心で大正時代に埋設された碑石が出土した。碑石は大ぶりの円礫9点で被覆されていた。その他に埋土中から鉄製品の破片や玉類が見つかった。



**写真2 265号墳トレンチ12葺石検出
状況 (東から)**

前方部左側。墳裾に葺石が残存するが、状態は良くない。周溝は浅く、地表下約70cmで底面となる。周溝の外側にも緩やかな溝状の落ち込みがあり、二重目の周溝となる可能性がある。



**写真3 265号墳トレンチ13・15全景
(北西から)**

前方部主軸付近。一段目(トレンチ13)・二段目(トレンチ15)とも墳裾に葺石が残存する。周溝はトレンチ12と同様に浅く、現地表下約70cmで底面となる。





**写真4 265号墳トレンチ13葺石検出
状況（北から）**

現時点では、葺石の残存状態が最も良好な箇所である。基底石は縦向きに埋め込まれている。



**写真5 265号墳トレンチ14全景
（北東から）**

前方部左隅角は、後世の畑地化により完全に失われている。周溝底面には多量の焼礫が顔を出しており、縄文時代早期の集石遺構が存在することが分かる。



**写真6 265号墳トレンチ15葺石検出
状況（北から）**

葺石の密度は低く、まばらに埋め込まれている。中央の区画列石を境として、左右で葺石の様相が異なる。基底石は縦向きである。

写真7 101号墳トレンチ1全景
(西から)

墳丘南西面。台地の落ち際とは反対方向に当たる。葺石は小さく、配置も不規則である。基底石も明瞭ではない。テラス部で円筒埴輪が出土した。



写真8 101号墳トレンチ2全景
(南東から)

墳丘南東面。基底石には大ぶりの石材を用いているが、葺石の配置は不規則である。テラス部で円筒埴輪が出土した。



写真9 101号墳トレンチ3全景
(東から)

墳丘北東面であり、台地下からは最もよく見える方向に当たる。二段目斜面の葺石には区画列石も認められ、四方のうちで最も整っている。墳頂部で鐙付壺形埴輪、テラス部で円筒埴輪が出土した。





**写真10 101号墳トレンチ4全景
(北から)**

墳丘北西面。葺石の残存状態は良くないが、二段目の基底石は揃っている。基底石は石材の小口を揃えるようにして並べられる。テラス部で鍔付壺形埴輪が出土した。



**写真11 101号墳トレンチ5全景
(南東から)**

北東面、南東面間の隅角にあたる。大ぶりの石材の基底石がよく残り、隅角には区画列石も認められる。墳裾で短甲形埴輪が出土したほか、周溝内で小型丸底壺も複数見つかっている。短甲形埴輪や小型丸底壺の一部には、純層に近い鬼界アカホヤ火山灰が被っていた。



写真12 100号墳の工事状況

2015（平成27）年度は前方部の盛土・芝張り、周溝の砂利敷きを実施した。

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき さいとばるこふんぐん はくつちようさ・ほぞんせいびがいようほうこくしょ							
書名	特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書							
副書名								
巻次	XVIII							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	堀田孝博							
発行機関	宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）							
所在地	〒880-0805 宮崎県宮崎市橋通東1丁目9番10号 (〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670)							
発行年月日	2016（平成28）年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
さいとばる265ごうふん 西都原265号墳	さいとしおおあざどうじ まるあざしんたて 西都市大字童子 丸字新立674番・ 675番	45208				2015.11.5～ 2016.3.31	150㎡	史跡整備関連
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	古墳	古墳	前方後円墳（葺石・ 周溝）	須恵器・管玉・鉄鏃・弥生土器 縄文土器・石鏃・石錘・陶磁器		大正調査坑の再発掘を実施		
さいとばる101ごうふん 西都原101号墳	さいとしおおあざみやけ あざひがしたての 西都市大字三宅 字東立野4700番9	45208				2015.8.5～ 2016.3.31	65㎡	史跡整備関連
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	古墳	古墳	方墳（葺石・周溝）	土師器・埴輪		古墳群2例目の方墳であることを確認		

特別史跡 **西都原古墳群** 発掘調査・保存整備概要報告書(XVIII)

2016年3月31日

発行 **宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）**

〒880-0805 宮崎県宮崎市橋通東1丁目9番10号

(〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670)

印刷 **株式会社 エスアイエス**

〒880-0852 宮崎県宮崎市高洲町50-4